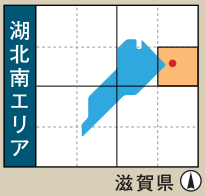
天然記念物
国指定

息長ゲンジボタル発生地

近江町長沢　昭和19年12月7日指定



坂田郡を流れる天の川は、水質、河川の形状ともに蛍の生育環境に適しており、流域の2カ所が、 蛍発生地として天然記念物に指定されています。息長ゲンジボタル発生地は下流地域にあり、水質の悪化、災害などにより一時壊滅的な打撃を受けますが、流域の住民の努力の甲斐あって、無数の蛍が乱舞する、昔日の状態に戻りつつあります。

天野川のゲンジボタル①

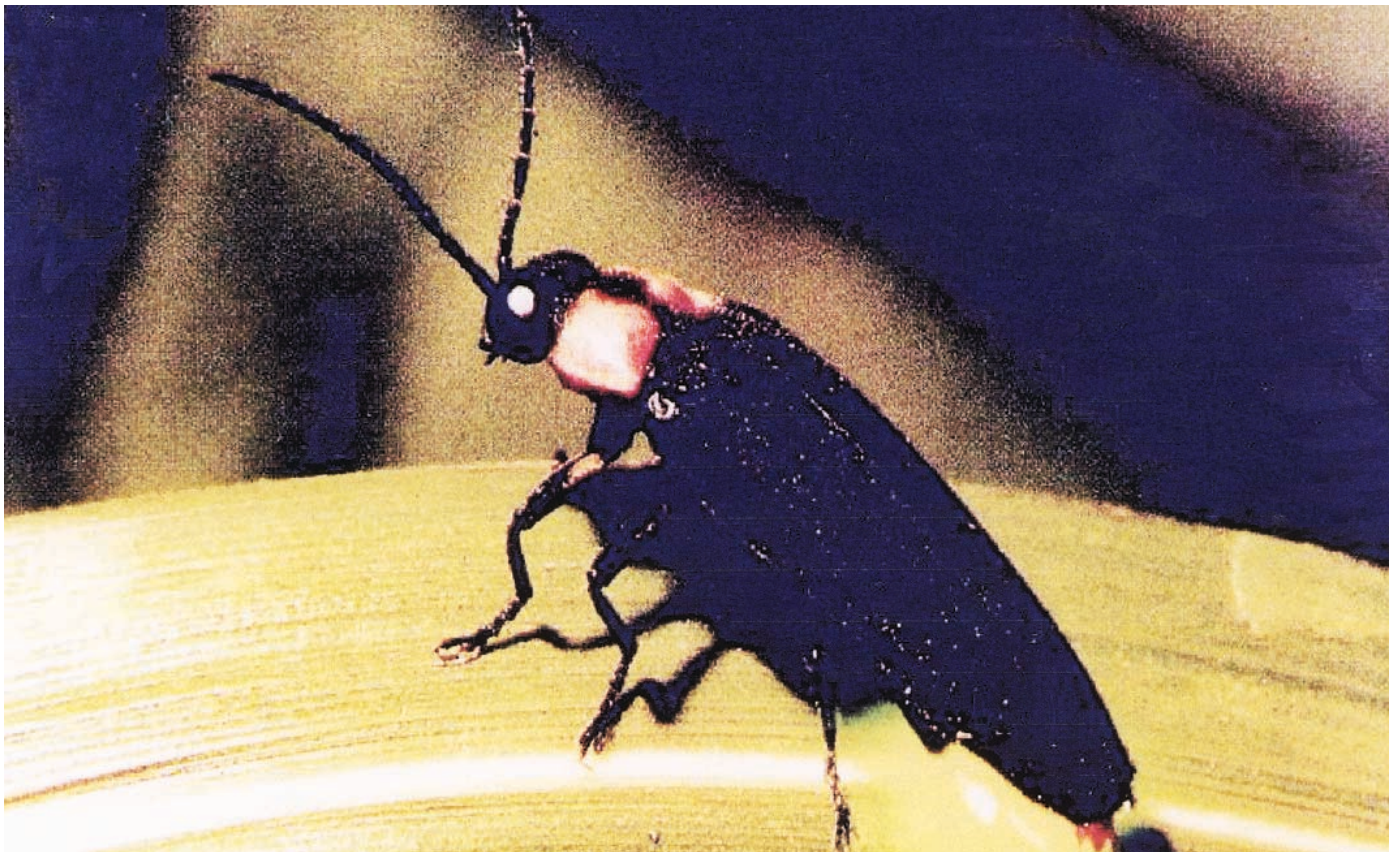
天の川は南の霊仙山に源を発し、北の伊吹山からの水を集めて琵琶湖に注ぐ河川です。水源となる二つの山は石灰岩質でできており、カルシウム質を豊かに含む水は、ホタルの幼虫の餌となるカワニナの生育に適しています。さらに、農業用水をとるために昔から多くの井堰が作られていたことから、川の流れが変化に富み、治水のために作られた堤防や、川岸に生える樹木もホタルが生育するための絶好の環境となっており、昔から5～6月にかけて、大量のホタルの発生を見ました。

大正10年（1921）頃には湖南の石山、守山のホタルと共に近畿地方で紹介され始め、観光の名所となります。特に、長岡のゲンジボタルは戦前まで今上天皇の第1皇女に献上する儀式が行われていました。

（以下学習シートNo.110長岡のゲンジボタルおよびその発生地に続く）



息長ゲンジボタル発生地



ゲンジボタル

［ゲンジボタルの一生］

産卵と孵化

水が澄んでいる水際に生えているコケに0.5ミリほどの白い卵を産みつけます。一匹のメスが産卵する卵の数は、約500～1000個と言われています。約1カ月後には、孵化が始まり、幼虫は卵の中にいる時から光っています。

幼虫

幼虫になると明るい日中は、明かりを嫌って岩陰や石の下に隠れていますが、夕方になると胸部にある三対の脚と尾脚を使って、活発に動き回ります。餌はカワニナという巻貝の一種を食べ、成長に合わせて5～6回の脱皮を繰り返し、20～30ミリほどの大きさになります。

サナギ

桜の開花が盛んになってくる4月頃に、川の中から光りながら這い上がってきます。陸に上がった幼虫は自分のだ液を使って土を固め、土繭を作り、その土の中でサナギに成長します。

成虫

土の中で羽化したホタルは、まだまだ未熟で、羽も柔らかく黄色がかっているのが特徴です。しかし2～3日もすれば羽は硬く褐色となり成虫として水面を飛び交います。成虫になると夜露を飲むだけで、何も食べずに一生を終えます。その間は子孫繁栄のために交尾をし産卵を始めます。



ホタルの幼虫



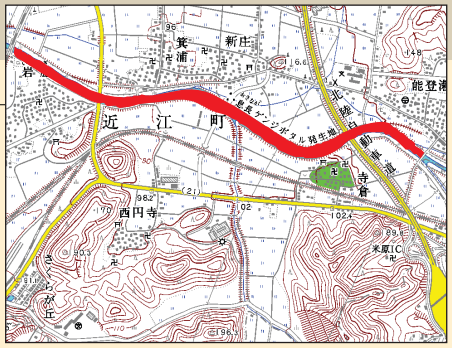
カワニナの観察

関連する文化財

長岡のゲンジボタルおよびその生息地	学習シートNo.110
沢辺ゲンジボタル発生地（宮城県金成町）	東北地方の代表的なゲンジボタルの発生地
鎌田川ゲンジボタル発生地（山梨県昭和村）	甲府地方の風土病の中間宿主のミヤイリガイがホタルの幼虫の食餌であることから、両者の共存が問題となっている
岡崎ゲンジボタル発生地（愛知県岡崎市）	「生田蛍」の名で著名な蛍発生地。カワニナの増殖などにより蛍の保護増殖が図られている
木屋川・音信川ゲンジボタル発生地（山口県長門市・豊田町）	いずれも中国地方の著名な蛍発生地であったが、乱獲のため減少したため指定による保護が図られた
山口ゲンジボタル発生地（山口県山口市）	江戸時代から旧暦4月20日を蛍の縁日として、籠に飼っていた蛍を放す風習があった
船小屋のゲンジボタル発生地（福岡県瀬高町・筑後市）	矢部川の一帯の蛍発生地
醒ヶ井地蔵川（米原町天然記念物）	中山道醒ヶ井宿に源を発する清流。バイカモが生育し、ハリヨが生息することで知られている

もっと深く知りたい

近江町教育委員会　☎0749-52-3111　坂田郡近江町顔戸488-3



息長ゲンジボタル発生地へのアクセス

JR北陸本線　坂田駅下車
北陸自動車道　米原インター

【参考文献】〔日本の天然記念物〕講談社　〔滋賀縣天然記念物調査報告〕滋賀縣保勝會

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月